

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 鷹の巣幼稚園】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	鷹の巣幼稚園 全学級 14名 保護者 16名 地域の方 4名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科等名 (たかのすオリパラげんきっこタイム) ② 行事名 (リズムジャンプ運動・英語体験活動 など) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	① 運動遊びを通して、体を動かす楽しさや喜びを感じながら、友達と一緒にチャレンジしようとする実践意欲を養う。 ② 人との交流を通して、相手に対する礼儀や共によりよく生きようとする心情を培う。 ③ 地域の伝統文化や外国文化、様々な音楽にふれる体験を通して、様々な文化の理解と多様性を尊重する心豊かな子どもを育成する。
5 取組内容	<p>【年間テーマ：たかのすオリパラげんきっこタイムを楽しもう】</p> <p><常時活動「オリパラげんきっこ運動を楽しもう」></p> <p>○ 毎日30～60分間、園庭や遊戯室などで様々な運動に挑戦して遊び、体を動かす楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭：ぱかぽこ、フラフープ、短縄・長縄、竹馬、固定遊具チャレンジ、かけっこ、リレー遊び、鬼ごっこ、ボール遊び など ・遊戯室：ジャンピングマット、トランポリン、マット、平均台、巧技台、はしご、ビーム、跳び箱、鉄棒 など ・保育室：リズム遊び、鉄棒、マット、トランポリン など <p>○ 各遊具の遊び方や安全面での約束を行い、けがの防止に努めた。</p> <p>○ 各年限の運動目標遊具（年少：ボール、年中：短縄、年長：竹馬など）をつかい、友達と一緒に楽しみながら挑戦した。年長児は、親子でつくった竹馬に挑戦し、自分の目標に向かって最後まであきらめずに取り組む力が養われ、自信につながった。</p> <p>○ 様々な運動に挑戦して遊び、体を動かす心地よさを感じながら、体力向上や認知能力向上をめざすことにも努めた。</p> <p>○ 異年齢園児が一緒に遊ぶ中で、交流し、教え合い、互いに親しみをもちながら体を動かして遊ぶ心地よさを味わうことができた。</p> <p><各学期1～2回実施「矢幡先生とげんきっこ体操を楽しもう」></p> <p>○ 体操教室講師矢幡道子先生より、運動遊びの指導や運動会取組に向けた教師の研修会を行う。</p> <p>①運動会取組（運動全般・ダンス）について研修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達に応じた運動内容、体を動かすことと身に付いていく力との関係、運動する意味などを学ぶ。学んだ内容を随時日常の取組に取り入れ実践した。 ・ 10月運動遊び発表（運動会）にて、指導いただいたことと日頃積



広い園庭で
みんなで体操しよう



私の手づくり竹馬
もう一人で乗れるよ



はしごの次は、一本橋
落ちないように歩くよ



ジャンピングマット
両足でジャンプ



逆上がりに挑戦
お腹をつけて足を伸ばして



リズムジャンプ運動・ランジ
新しい跳び方に挑戦だ



武藤さんの講話
幼児期に運動が必要な理由は…



1・2・3・4
リズムに合わせて



太鼓のリズムを声に出して
♪トントン・トントン

み重ねた運動遊びをお家の皆さんにみていただいた。

②各年限30分、矢幡先生と「げんきっこ体操」に挑戦する。

- ・ 全園児とも、リズム体操や柔軟運動、器械運動、遊具をつかった運動遊びを行い、各年限の課題に向けて取り組む。
- ・ 年間1回、親子げんきっこ体操を実施。『運動遊びと子どもの健やかな発達・運動遊びのよさ』などの話を保護者に伝えながら、親子で楽しめる運動遊びの指導をしていただいている。

- (年少組)・サーキット遊び(マット・跳び箱・ビーム・はしごなど)
 - ・ ボールを使った運動遊び など
- (年中組)・ジャンピングマットを使った運動遊び
 - ・ 短縄を跳ぶにつやいろいろな遊び方 など
- (年長組)・マット・跳び箱運動(正しい手のつき方と回り方跳び方)
 - ・ 鉄棒運動(前回り+降り・逆上がりのこつ)
 - ・ ボール運動(投げ方と取り方・的へ投げる) など

＜毎週2～3回朝実施「リズムジャンプ運動に挑戦しよう」＞

○ ギラヴァンツ北九州普及事業部武藤克宏さんに、サッカー教室で指導を受け、保育に取り入れている。

○ リズムトレーニング(リズムジャンプ運動)とは・・・

- ☆ 体力向上・認知能力向上につながる、子どもたちの大好きな運動。
- ☆ 「音・リズム・動き」の楽しさが、脳に刺激を与え、「脳によい」といわれている。
- ☆ 朝15分運動することで、脳を刺激し、楽しく体を動かし、すっきりとした気持ちで、意欲満々に一日をスタートできる。
- ☆ 運動を続けることで、足腰が安定し、体幹が整い、走力も伸び、様々な運動機能アップにつながる。
- ☆ 友達と並んで待って運動する、先生の話をしっかり聞く、などの社会性も育つ。

① 日々の活動で

- ・ なかよし異年齢グループの友達と一緒に、ビートの効いた音楽に合わせて、ラインを跳び越え、様々なジャンプ運動に挑戦している。

②「ムーコーチと運動遊びをしよう」

- ・ スポーツリズムトレーニングの運動的効果や認知能力向上等についての話を聴く。(保護者)
- ・ リズムジャンプ運動やボール運動を楽しむ。(幼児)

③「サッカー教室で楽しもう」(秋・冬2回)

- ・ 福岡県サッカー協会主催サッカー教室で、ムーコーチにリズムジャンプ運動やのサッカーの指導をしていただく。

○ 子どもたちは、リズムジャンプ運動が大好きで、様々なジャンプ運動に喜んで取り組み、体力・運動能力アップにつながっている。

＜年間9回実施「地域の伝統文化『鷹見楽太鼓』に親しもう(年長児)＞

○ 『鷹見楽太鼓』は、地域の貴重な無形文化財で、年長児が、保存会の方と一緒に練習し、伝統太鼓に親しんでいる。通常は、成果を地域の秋祭り『穴まつり』で披露する。

- ・ 保存会の方には、ばちの持ち方・叩き方だけでなく、礼の仕方などの礼儀作法も教えていただいている。
- ・ 太鼓のリズムは難しく、口伝と独自の楽譜で、リズムを口ずさみながら繰り返し練習している。
- ・ 秋から、親子で和太鼓演奏を楽しみ、日本文化に親しんでいる。
- ・ 毎年年長児は『鷹見楽太鼓』演奏に期待と喜びをもち、「自分たちが受け継いでいる」という自信になっている。地域の方と関わる貴重なふれあいの場ともなっている。



英語の手遊び歌楽しいね
♪one two three four...

	<p>○ 「♪ピアノとマリンバ音楽会」「リトミック教室」</p> <ul style="list-style-type: none"> 和太鼓の他にも、ピアノと打楽器（マリンバ）の演奏や歌を聴いたり、打楽器にふれたり、表現遊びなどをして、様々な音楽文化とのふれあいを楽しんだ。 <p><年間3回「異文化理解体験『ユナ先生と英語体験を楽しもう』></p> <p>○ ユナ先生（フィリピン出身）に出会い、一緒に歌ったり、簡単な英語を話したりして、外国のことを知ったり、英語に親しんだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各年限の実態に応じた内容で、歌や歌遊び、クイズやゲーム、身体表現などを体験しながら、楽しい活動時間となっている。
<p>6 主な成果</p>	<p>○ 日常の運動遊びや「げんきっこ体操」「リズムジャンプ運動」などに取り組むことを通して、運動技能・認知能力が向上し、運動する楽しさを実感し、進んで運動しようとする態度を養うことができた。</p> <p>○ 体操教室講師の指導で、幼児の発達に応じた遊びに、遊具を有効活用し、平衡感覚や柔軟性、調整力を養ったり、体幹を鍛えたりした。苦手なことを克服し、幼児の心の成長にもつながっている。</p> <p>○ 文部科学省推進幼児の体力向上「1日に60分以上の運動」を達成した。</p> <p>○ 日本伝統文化や様々な音楽文化、異文化（フィリピン）にふれ、多様な体験の積み重ねによる幼児の豊かな心の育成につなげることができた。</p> <p>○ 今年度はコロナ禍の中での実践で活動が限られたが、人との接し方や挨拶を実践したり、様々な人とふれあうことの楽しさを実感したりして、コミュニケーションの素地や社会性を養うことができた。</p> <p>○ 園だよりや学級だより、HP等で保護者へ活動内容や効果を知らせたり、実際に講師の話をきいたり体験したりしたことで、理解が深まり、子どもにとって貴重な体験だと喜ばれている。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ 3年間取り組んできたよさを継続しながら、内容を見直したり、新たな内容を取り入れたりして、心身のバランスの取れた幼児の育ちにつなげるようにした。</p> <p>○ 地域の文化財や人材、教材や教具等の情報を常に得られるよう努め、効果的に保育に取り入れ実践につなげた。「伝統文化・和太鼓体験」と「リズムジャンプ運動体験」は園の特色となっている。</p> <p>○ オリンピック・パラリンピックに幼児なりに関心がもてるように、『たかのすオリパラげんきっこタイム』と名付け、全員で自分たちの顔を描いた五輪の旗を作成して掲示している。</p> <p>○ 幼小の接続を意識した内容を取り入れ、多様な体験の積み重ねと小学校での学びを支える力の育成を目指した。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○ 幼児がオリンピック・パラリンピックの意義等を深く理解することは難しい。幼児なりに興味をもって楽しく取り組めるよう、伝える方法や内容を工夫することが必要だと考える。</p> <p>○ 様々な運動遊びと幼児の発達の関連性や効果を分析し、内容と育ちを系統立ててまとめることが望ましい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 幼児の実態に応じた運動体験や文化体験等を保育に効果的に取り入れるよう努め、幼児の心身の育ちを考察していく。</p> <p>○ 自国文化の理解を大切にして、小学校へつなぐ教育内容（英語体験・異文化理解など）を意図的に取り入れ、活動を楽しんだり、国際理解につなげたりしていく。</p> <p>○ 保護者や地域へ、取組のよさを発信しながら継続し、取組への理解をさらに進めていく。</p>